

# 通学路の安全確保を！



一般質問する松浦議員

松浦議員の一般質問の2項目目は、「通学路の安全確保」についてです。「全国で登下校中に児童生徒が死傷する事故が相次いでいる。文科省、国交省及び警察庁から通学路における緊急合同点検の実施や安全確保に向けた取り組みの要請があり、取り組みの状況はどうか」と質問。

次に、議員は鉄南地区から網走小学校へ登る通学路の安全性の認識について質問。田口部長は、「登下校の安全確保については、スクールガードによる週1回の巡回のほか、PTAや地域の方々による校区内安全パトロールを実施している。また、学校として子どもたちに、できるだけ複数で登下校するよう指導している」と答弁。次に、この通学路の維持・管理は、どこが行っているのかと質問。石川建設部長は、「現在、市道認定はされておらず『保安林内通路』の位置づけになっている」と答弁。松浦議員は、この通学路がLED化になっていないが、その理由について質問。石川部長は、「昨年度、町内会所有も含め、市内の全ての防犯灯をLED化をした。しかし、その段階で所有者が不明のためLED化ができなかった。その後、北電から契約者が網走小学校であると判明したので、今後、整備にむけて取り組みたい」と答弁があった。



## 街・スポットライト



「生の声」で宣伝する市民

「生の声」で自分の思いを伝える。一見当たり前のように思える事ですが、意外と難しく

## 松浦奮戦メモ

私は、原水爆禁止網走協議会の理事をしています。今年も原水爆禁止世界大会があり8月2日に国際会議、4日は広島で開会総会、5日分科会、動く分科会、6日閉会総会の予定で開かれます。今年度の代表は、新日本婦人の会の方が参加することが決まりました。参議院選挙が終れば、市内にある中小企業や団体、商店、個人などを訪問して募金活動をする予定です。

いのではないのでしょうか。

全国で今、普通の市民が政治に対する思いを声に出して立ちあがっています。特に「平和」か「戦争」かを分ける安保法制（戦争法）について声を上げています。

2日（土）、松浦市議ら市民はマイクからメガホンに持ち替え買物客に訴えていました。「安保法制は廃止しよう」「最低賃金は今すぐ1000円を実現しよう」「TPPは絶対反対」「投票に行つて政治を変えよう」。スピーカーからの声には慣れている市民も、メガホンからの声に驚く人も、また手を振って応援する姿もありました。

「生の声」で自分の思いを伝える。一見当たり前のように思える事ですが、意外と難しく

すので、みなさんのところに募金をお願いに行つた時は、ご協力をお願いします。

また、7月19・20日にエコセンターロビーで、原爆写真展を行う予定です。ぜひ見に来てください。

原子爆弾がいかに悲惨な兵器で人類とは共存できないことがよく分かると思います。2度と悲惨な戦争をしない、核兵器は1日も早く地球上からなくすように、これからも運動をしていきます。

## 流氷

「音もなく歴史の1ページが開かれた」1945年8月15日、日本の敗戦の日、宮本百合子はその著の中で書いているが、今は音を立てて日本と言うこの国

が変わりだしている。▼世界の動きもしかり、私たちの願いは一つ「平和で生活にも国のゆく先にも不安の無いこと」何か事件事故が起こるたびに自己責任だとして、自公政権と追隨するやからは、少しも責任をとろうとしない。これは怒らずにはいられない。▼平成元年に3%から消費税が導入され、福祉に使うと言つて、5%に8%にと今、参議院選挙に向けて、10%への増税を先送りしたが、きっぱりやめるべきだ。自公政治が続き血税は、どんどん軍事費につき込み5兆円以上になった。国民年金も、株の運用などで5兆円もすつてしまふ、怒りの1票をと思わずにはいられない。地球温暖化もだんだん進んで、氷が解けて海水が上昇するだけでなく、海水温度も3度も上がると言う。全ての生態系が変わり、動植物のみならず、人間自身が生きていけない状態に進みつつあるのに、原発も核兵器もやめない。世界中に軍備の無い国も増えてきている今、もつと暮らしそのものを見直し、政治を私たちの手に取り戻すことこそ、生存権を守ることに繋がっている。